

2023年1月26日 第52回研究報告会 宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所会長をしております宿利です。

本日も大変多くの皆様にご参加の登録をいただいております。また、寒い中、この会場にも多くの皆様にご参加をいただいております。誠に有難うございます。

本日の第52回研究報告会が、当研究所の2023年最初の公開の活動となります。皆様におかれましては、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、3年前に始まったCOVID-19のパンデミックの余波が未だ続く中、当研究所では、我が国の水際対策の適時適切な見直しについて、一昨年来度重なる提言を行ってまいりましたが、他のG7諸国と比べて遅きに失した感はあるものの、昨年秋から我が国の水際措置が緩和され、ようやく我が国においても、国際的な往来が徐々に活発化してまいりました。

一方、昨年2月からのロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、冷戦後の国際秩序を脅かし、エネルギーや食糧などのグローバル・サプライチェーンを毀損し、エネルギー価格の高騰などによって世界各国の社会・経済に大きな影響を与えています。

このような状況を踏まえ、当研究所では、昨年12月に、「急激に変化するコロナ後の世界秩序と今後の日米関係」と題するグローバルセミナーを開催しました。多くの皆様にご視聴いただき、有難うございました。また、その翌日には、タイのバンコクで開催されたローマクラブ報告書「成長の限界」発刊50周年記念国際シンポジウム「Transforming Mobility for Humanity」を、中部大学の林良嗣先生のお力添えをいただいで当研究所が共催し、当研究所の研究員からも研究成果を発表しました。

当研究所としては、「学術研究と実務的要請の橋渡し」という設立の原点を常に踏まえ、グローバルで普遍的なテーマである、脱炭素社会の実現、包摂性やウェルビーイングの実現、QOLの向上などの諸課題に対し、公共交通・モビリティや観光がどう応えていくかについて、より踏み込んだ研究調査を行うとともに、国際的な学会や海外の研究機関・研究者、政府機関などと緊密に連携して、我が国及び世界の交通運輸・観光分野の発展に貢献してまいりたいと考えております。

この一環として、昨年9月には、モビリティに関する当研究所の直近の研究調査の成果を広く皆様に知っていただくために、書籍「ウェルビーイングを実現するスマートモビリティ」を発刊しました。

現在、各研究員による個別研究とともに、2050年の日本を支える公共交通のあり方、交通運輸分野の脱炭素化、近年の需要構造の変化に対応する交通運輸産業・観光産業の革新、DXによる物流の革新などの重要なテーマについて、有効な政策提言を行うべく、それぞれ、学識経験者や実務家の方々のご協力を得て、当研究所の研究員が共同して研究調査に取り組んでいます。

このようなグローバルで普遍的な課題に関する研究に当たっては、国際的な活動や連携を通じて

得られた海外の最新の知見や情報を活かし、より内容の濃い、かつ、グローバルなレベルの研究成果や政策提言につなげていくことが必要です。

このため、米国のワシントン国際問題研究所(JITTI)及び1昨年4月にタイのバンコクに設立したアセアン・インド地域事務所(AIRO)と東京の本部が有機的に連携して、また、同時に「自由で開かれたインド・太平洋」の実現のために交通運輸・観光が果たすべき役割をしっかりと意識して、北米から東南アジア・南アジアに及ぶインド・太平洋地域はもとより、欧州も視野に入れた広域的活動に取り組んでいます。この活動を充実させるために、2022年度から日本財団のご支援により開始したグローバル基金事業により、欧州等における交通運輸及び観光分野に関する最新の政策や知見、またその実態に関する調査研究を進めており、本日もその一端を中間報告いたします。

一方、海外の現地における活動については、昨年5月以降、私や奥田専務理事が、インド、米国、インドネシア、タイ、スウェーデン、英国、ベトナムなどを訪れ、相手国政府の要人や官民の交通運輸・観光関係者と会談を重ね、関係の強化に努めております。

国内においても、昨秋来日したITF、International Transport Forumのキム事務局長等と会談し、今後の連携・協力について合意しました。加えて、韓国交通研究院(KOTI)との第17回目の定期ジョイントセミナーを東京で開催し、また、アジア交通学会(EASTS)とITFによる特別セミナーを共催し、いずれも当研究所の研究員が研究発表を行うなど、海外の関係者との顔の見える関係の構築に努めております。

さて、この研究報告会は、1997年に年2回開催する形でスタートし、今回が第52回目に当たります。前々回から、研究員による各研究調査報告に対し、それぞれコメンテータをお招きし、討論の時間を設けることといたしました。

また、討論に十分な時間を割くために、計4件の研究調査報告を本日と今月30日の2日間に分けて実施することとしております。

この研究報告会が、皆様のご期待に応えられるものになっているかどうか、ぜひ忌憚のないご意見・ご感想をいただき、今後の当研究所の活動の改善・充実に活かしてまいりたいと考えております。

最後になりますが、この場をお借りして、当研究所の活動について日頃より手厚くご支援を頂いております日本財団に対し、厚く御礼申し上げます。

当研究所といたしましては、本年も諸々の活動を通じて、皆様のお役に立てるよう努力をしておりますので、引き続き、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、少々長くなりましたが、私の挨拶といたします。

以上